

東日本大震災・原子力災害伝承館
第4回資料選定検討委員会議事録

1 実施日：令和元年11月29日（金） 13：30～15：30

2 会場：自治会館5階 502会議室

3 出席者

委員：青木淑子（富岡町3・11を語る会代表）
小野広司（福島民友新聞社編集局長）
菊地芳朗（福島大学教授）
鞍田 炎（福島民報社編集局長）
中井俊郎（JAEA福島研究開発拠点副所長）
藤澤 敦（東北大学教授）

事務局： ※欠席者 野地 誠（文化スポーツ局長）
小林 真（文化スポーツ局次長）
※欠席者 宍戸哲也（生涯学習課長）
※欠席者 本多智洋（生涯学習課主幹兼副課長）
太田栄一（生涯学習課主任主査）
遊佐昌志（生涯学習課主任主査）
武藤隆浩（生涯学習課主任社会教育主事）
※欠席者 松浦奏太（生涯学習課副主査）
舘山遥奈（生涯学習課主事）

受託者：（株）トータルメディア開発研究所
国立大学法人 福島大学
（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構

オブザーバー： ※欠席者 復興庁
経済産業省
福島イノベーション・コースト構想推進室

4 議事

（1）委員会開催計画について【資料1】

- 委員会開催計画について、事務局より説明。
- 第3回資料選定検討委員会における展示に対するご意見・ご指摘事項を踏まえた対応について、事務局より説明。
- 第4回の委員会の方針を踏まえ、第5回も引き続き具体的な展示実物資料についてご意見をいただく想定をしている。

(2) 実物資料の選定方針について

- 事務局より展示・プレゼンテーションエリア内展示資料について説明。【資料2】

委員からの御意見

① プロローグ

- 実物資料はなし

② 災害の始まり

<2-1 事故前の暮らし>

- 「学校生活に関する実物資料」について、今回の災害で双葉郡における県立高校は実際消滅に近い状況になっている。ただし、校舎は残っていて、当時の記録が残っているため、それらの資料も残していきたい。(青木委員)
(A：県立高校における実物資料の収集は未着手であるが、先日、富岡高校映像撮影を行ったところ。)
- 校舎の取り壊しはこれからかもしれないが、実物の収集は検討してほしい。(青木委員)
- 災害前にどこにどれだけの学校があったかなどの情報は出して行くことを検討してほしい。(藤澤委員)
- ふたば未来学園の学園祭において、各校の年史や様々な資料が展示されていたため、参考にするとよい。(中井委員)
(A：小学校に限らず、高校も含めた収集を検討していきたい。また、パネル等での説明も検討する。)
- 「地域の伝統を伝える実物資料」について、被災地の成り立ちなどを万遍なく伝えることを検討いただきたい。(菊地委員)
(A：被災地域を万遍なく収集していけるように検討する。)
- 被災当時、福島は非常に寒かった。実際に皮膚感覚で寒かった状況を実物資料と併せて伝えられるとよい。(鞍田委員)
(A：実際に体感してもらうことは難しいが、避難直後の写真や映像、キャプションなどで表現できればと考えている。)
- 「原子力発電所の広報、地域との関係に関わる実物資料」について、なぜ福島の沿岸部に原発が立地・建設されたかを説明するには、このコーナーしかないと考える。(菊地委員)
(A：プロローグ映像でも原発の立地について紹介する。また、実物資料以外でも解説パネル等でも紹介する予定。)
- 「原子力明るい未来のエネルギー」の看板は伝承館で展示されるべき資料だと考える。是非検討してほしい。(菊地委員)
(A：具体的になると、この看板は大きいため、設置及び保存の観点などへの配慮も必要なことから、今後検討していきたい。)
- 原子力に対する想いとして、各自治体の町民歌にも原子力との関わりが表れているものがある。こういったものも扱うテーマとして検討したい。(青木委員)
(A：検討する。)

<2-2 東日本大震災～地震と津波の記録～>

- 津波の高さについて、なかなか理解することが難しいため、その高さを実感できるような工夫ができるとよい。(小野委員)
(A：検討する。)
- 気仙沼の高校で、3階に車が突っ込んでいるのをそのまま保存しているので、参考とするとよい。(鞍田委員)
(A：近くにある震災遺構の請戸小学校もあるため、伝承館での扱いは検討したい。)

<2-3 原子力発電所事故の発生>

- 意見なし

<2-4 災害対策本部の記録>

- 意見なし

③ 原子力発電所事故直後の対応

<3-1 避難の開始>

- 長期化の部分とも関係するかもしれないが、全国にわたる避難先の状況・生活などは紹介するか。いじめの問題などもあるため原子力災害の特徴や教訓として検討するとよい。(鞍田委員)
(A：避難先の状況に関する実物資料は未収集。全国に避難を余儀なくされた状況は紹介する予定である。また、「県民の想い」での証言映像などでも語られる部分はあり得る。)
- 全国から制度的に支援をしてくれた内容などを見られるとよい。(小野委員)
(A：ご意見を踏まえて検討したい。)
- 「避難の開始」はどこまでの時期を扱う予定か。また、どれだけの人が日本全国に散り散りに避難せざるを得なかったかなどの数を示せるとよい。(青木委員)
(A：「避難の開始」は避難所までで、仮設住宅からは長期化の扱いを想定している。数については得られる情報にもよるが「避難の開始」の部分で紹介することを検討する。)

<3-2 県内に広がる不安>

- 「県内に広がる不安」、「除染」、「研修・ワークショップ」などいろんなコーナーに線量計が候補として入っているが、個人で調達された線量計もある。(中井委員)
(A：「県内に広がる不安」というテーマに沿った展示としていきたい。)
- SPEEDIのデータについて収集できているか。当時かなり議論されていたため、関連資料として収集できるとよい。(小野委員)
(A：現状では展示予定が無い。ただし、パネルでの紹介も含めて情報収集を行っていきたい。)

<3-3 国内外の反応と支援>

- 海外からの支援について、県内の高校に勤めていた外国人教員で、一度避難したが戻ってきている先生がいる。関連する資料を多く集めている人もいるため、それを提供してもらうことも検討してほしい。(菊地委員)
(A：情報提供をもとに検討する。)

④ 県民の想い

- 襖などの大型の資料は現状の造作に収まるか。(藤澤委員)
(A：棚板を資料に合わせて調整するようにして対応する。)
- 証言映像は1本当たり何分程度か。また、地域は万遍なく入るか。(青木委員)
(A：3分程度で想定しており、3人の方に話していただくために一人当たり1分程度となる。証言者の地域は被害の大きさ等により、浜通りが多くなってはいるが、県内全域を取り上げるため、中通りと会津の証言者も含めるよう配慮した。)
- 証言はテーマに沿った内容を話してもらえているか。(青木委員)
(A：証言映像は「県民の想い」に限らず各コーナーに設置されているが、それぞれテーマに沿った内容を話してもらっている。)

⑤ 長期化する原子力災害の影響

<5-1 除染>

- 伝承館でどこまで扱うかは不明だが、浪江・双葉で行われている除染と中通りの除染は異なるため、タイベックスーツなど注意して展示していかないと誤解が生まれる可能性がある。(小野委員)
(A：除染については、環境創造センターコミュニティとも連携して紹介の仕方は検討する。)
- 見せ方として、皇室関係の方が川内村を訪れたことを取り上げ、避難指示が解除され、人の出入りが自由になったことを示すというのも1つかと。また、どこまで除染済、という地図やグラフと合わせて展示するなど。皇室関係の写真等が出せるかは別途確認が必要かと思うが…(小野委員)
- 震災発生当時、皇室関係の方が来られた。その時のことを展示で紹介する場合は宮内庁の確認が必要か。(藤澤委員)
(A：手続き等は確認する。)
- 除染、風評に絡むが、環境が回復されている経緯については紹介するか。(鞍田委員)
(A：除染のやり方だけではなく、帰還困難区域で続いている除染や中間貯蔵施設に関する事など情報を出していく予定である。)

<5-2 風評の払拭>

- 意見なし

<5-3 長期避難への対応>

- 各町が把握している範囲で構わないが、双葉郡の避難者数と同時に仮設住宅が

県内のどこに何か所できているかがわかるとよい。県内の仮設住宅でも住民がバラバラになってしまった状況と仮設住宅そのものの状況（間取り等）もわかるとよい。（青木委員）

（A：現状ではあまり詳しく紹介できていないため、検討したい。避難者数などについては展示を予定している。）

<5-4 健康不安への対応>

- 研究者インタビューの人選はどうなっているか。それによって内容が変わると思われる。

（A：現状は各方面から慎重な意見をいただいているため、人選は誤解がないように担当部局と連携して検討していきたい。）

<5-5 研修・ワークショップ>

- 意見なし

⑥ 復興への挑戦

<6-1 行政による復興への取り組み>

- 意見なし

<6-2 廃炉の今>

- 意見なし

<6-3 福島イノベーション・コースト構想の取り組み>

- 意見なし

<6-4 未来の街>

- 意見なし

<6-5 チャレンジ！ふくしま>

- 意見なし

⑦ その他

- 多言語化についてはどの程度対応するか。海外の方に誤解を生まないようにしていく必要がある。音声ガイドは必要になると考えている。（菊地委員）

（A：全体的に基本、日・英は対応を予定している。ゾーンサイン、コーナーサインレベルは日英中中韓など他施設を参考に検討している。その他の階層はタブレットなどでの対応を予定している。）

- 屋外展示はできるだけやった方が良く考えるが、可能なスペースはどの程度の広さなのか。仮設住宅そのものも展示できるとよい。（菊地委員）

（A：アーカイブ広場や復興祈念公園などスペースは十分検討可能になるが、工事などの条件を確認しながら検討したい。仮設住宅の再利用について

は浪江町で宿泊体験などをやっていることもあるため、周辺自治体とも連携していきたい。)

- 仮設住宅の中でも良い建物と長期間過ごすには厳しい建物もある。(小野委員)
 - 浜通り以外の被害は扱う予定か。また、いわきは4・11の余震で物資が途絶えるなどの被害があったため、時系列として扱えるとよい。(鞍田委員)
(A:地震の被害に関する部分は浜通り以外も扱うが、全体のバランスとしては浜通りが多くなっている。3・11以外の被害はバランスを見て検討していく。)
 - オープンの際にはマスコミが多く報道することになるが、目玉になる資料はあるか。それが一つでもあるとメッセージ性が高まり、来館者の満足度も高まる。(小野委員)
 - 開館後に無料のパンフレット、リーフレットを作成することになると思うが、多くの言語を用意しておいた方がよい。また、有料かと思うが展示図録、ガイドブックなども少なくとも英語版は用意した方がよい。子ども用ガイドブックなども日・英を検討した方がよい。(菊地委員)
博物館によくあるミュージアムショップはあるか。また、ガイドブックと合わせて、各自治体が出している出版物等も置けるとよい。(青木委員)
(A:今後、伝承館の指定管理者と協議し、段階的に整備していくことも含めて検討していく。)
- 指定管理者に任せるよりは、県が主導して進めてほしい。また、ガイドブック等もオープン当初にある方がよい。(菊地委員)